

銀漢亭日録



伊藤伊那男

7月8日(日)

▼「銀漢」8月号最終原稿の校正。昼前、宮澤が迎えに来てくれて成城、長女の家。誕生祝をしてくれるという。からすみ、海老豆鼓炒、スベアリーブ、蛸のエスカルゴ風、蛸焼器で作る(、)シランパン、パースデーケーキ。窪田明氏より到来の極上品のさくらんぼ。途中、マッソージ機でうたた寝したり……とのんびり。誕生祝いにバジマもらう。

9日(月)

▼「火星」同人秀逸十五句選、高校同窓会誌へ五句送る。発行所、最終校正あと編集会議二十時半までみっちり。頭が下る。

10日(火)

▼店、奥で「火の会」、卓田謙二りいの編集長、今井肖子「ホトトギス」、広渡敬雄「沖青垣」、阪西敦子「ホトトギス」「円虹」、天野小石「天為」、菊田二平「唐変木」、太田うさぎ「雷魚」、杉阪大和「銀漢」など。他、六人休み。発行所、津田卓さんの新しい句会「雛句会」六人。皆川文弘さん来店。

11日(水)

▼「俳句あるふ」新世紀の俳人たちに、こしたまは推薦文、平成俳壇選句終える。発行所「梶の葉句会」。選句に上る。客少なく二十時に閉める。

12日(木)

▼「沖」「青垣」の広渡敬雄さん、銀行時代の部下の方々と同窓会。洋酔さん、漫画家のクミタリユウ、種村国夫さんなど。

13日(金)

▼福住家政婦紹介所の安藤さん入る。今日は冷蔵庫の掃除も。店、久々、吉田類さん。エゾ鹿の缶詰を土産に。類さんが来たあと、次々に客が入る。さすが「居酒屋放浪記」の類さんだけに何かある！な。

17日(火)

▼九月号選句進める。小島正さん、厚木の豚の味噌漬持参してくれる。店、久々、対馬さん。

18日(水)

▼高校同期の「三水会」。何と二名、淋しい！発行所「はてな句会」。岸本、坊城、阪西さん他。終って七人店へ。ひまわり館にて朽木直さんの始めた「宙句会」。第二回にもかかわらず十一名参加。終って七名店へ。皆若い若い！慶大茶道会の先輩、枘田、八田、小倉さん、神戸から来た二年後輩の宮崎君を囲んで思い出話を楽しく。

19日(木)

▼桃子二家今日から沖繩へ。銀漢句会二出席、二十七人、欠席投句十九人。慶大茶道会、年後輩の山添康雄君。

20日(金)

▼発行所「野村句会」、藤枝の五十嵐京子さん参加。終って六人店。客少なし。二十二時閉める。

21日(土)

▼否も今日から沖繩へ。店、「おお！納涼句会」二十五人。幹事小野寺清人さんの焼きそば。外で鯛カマ、鶏、トウモロコシなど焼く。五句持ち寄り、あと三句出しの句会を三回。計十四句の会。外部から、山田真砂年、篠崎央子、竹内宗一郎、土肥あき子、天野小石、小川洋、近恵さんなど。

22日(日)

▼年程前に運転免許証を紛失しそのままにしていたが、更新時期。やはり手に入れておこうと、朝八時半目指して都庁へ行くと土日は休みだという。早起きしたのに……。どうと力が抜ける。案内状をしっかりと見なかった私、抜けている。ということ、八時半過ぎに新宿の喫茶店でモーニングセツト。帰宅して終日選句など。

23日(月)

▼発行所、九月号送付作業。店、「湯島句会」出句九十八人。当日参加三十六人。志乃多寿司、大金星の焼そばなど取り寄せ。二十三時にはお開き。

24日(火)

▼昼、ひまわり館「萩句会」選句へ。あと六人程店に寄つてくれる。伊那の小池百人君、対馬、小石さんなど。二十三時閉める。

25日(水)

▼読む会二平、真砂年、麒麟、うさぎさん他。山口誓子について。

26日(木)

▼暑い、暑い。でも今年まだクーラー使わず。というのも一台

27日(金)

▼福住家政婦紹介所安藤さん掃除に入る。九時半、のはら医院にて区健康診断。血圧、何と120/83と。朝計つたら上160あるのだが……。銀漢九月号の原稿全部書き上げる。

28日(土)

▼新幹線、しなの鉄道を乗り継いで昼、小諸。第四回「こもろ」日盛俳句祭にスタッフ俳人として参加。虚子庵訪ねて十三時会場へ。クラスはくじ引で、山西雅子、筑紫磐井、本井英、中田尚子、永方裕子さんと。何と北海道から依田明倫さんが来ていて、皆に短冊をいただく。句会あと二十四節季についてのシンポジウムとパーティー。終って十九時から「魚民」にて「銀漢」の仲間、「夏潮」の方、山田真砂年、小島健、土肥あき子さんなど十数名で親睦会。ホテルへ戻ると津田卓さんがカラオケルームをセツト。小島健さんを囲む。するといつの間にか岸本尚毅さんが来てマイクを握っている。

29日(日)

▼浅間山の小諸からの登山口、浅間山荘への吟行バスに乗る。丁度、武田編集長夫妻も当日参加で着いたので一緒に。一軒宿の浅間山荘は鉄分の濃い赤い温泉が湧いている。吟行を早々に切上げて入浴する。昼は街に戻り「そば七」。十三時半からの句会、島田牙城、筑紫磐井、間草慶子、小島健さんのクラス。終って「銀漢」の六名で嬌恋村柴山つぐ子さんの「北軽句会」へ。バーベキューなど用意してくれて山荘の庭でパーティー。終った頃、強烈な雷雨となる。句会、軽井沢発二十時前の新幹線で東京へ。

30日(月)

▼東京は暑い。でも昨日の軽井沢も日中三十度を越えたという。クーラーを入れて寝る。何年振りだろうか。妻が死んでから初めてかも。邑書林へ波多野爽波の「句アンケート」。

8月1日(水)

31日(火)

▼「鴻」依頼の吉田鴻司全句集について鑑賞文にとりかかる。店「雛句会」四人。

31日(火)

▼運転免許更新手続に再び都庁へ行くと、紛失者の更新は試験場での手続きだという。結局東陽町の試験場へ向う。汗だく。視力検査に引つ掛り、洗面所で目を洗って再検査。危うく通る。もし駄目だったら眼鏡を作つて出直しと。片方の目が0.2でようやくゲット。店、中島凌雲君二十七歳の誕生日として、てる緒さんヒザ焼く。発行所は事業部鍛錬会の打合せと作業。

2日(木)

▼店「白熱句会」。水内慶太、檜山哲彦、小山徳夫、藤田直子、井上弘美の面々。小暮陶句郎さんは所要で欠席。十句出し句会。小生もメンバーの全員主宰の会。歯に衣着せぬ厳しい句評。主宰になると周りが気を使つて自分の句が解らなくなるので、こういう句会は大切ということで継続が重要。ひまわり館にて朽木直さんの「宙句会」、終って八名店。小諸で知り合った村上開新堂の五代目店主山本道子さんより幻のクッキー到来！

3日(金)

▼発行所「爽快」環、花鳥さん等の吟行会の句会へ貸出し。あと五名店へ。

4日(土)

▼発行所「大倉句会」終って六人店。会社員時代の神村君、東大ベンチプレス部の仲間と。